

## 活動報告

|            |  |
|------------|--|
| 団体名        | Project 九州   |
| 活動名        | 心理的危機状態の予防、および子どもの遊び場支援のための活動  |
| 活動期間       | 2017年10月～2018年3月   |
| 活動の成果      | <p>「Project 九州」は臨床心理士を中心とした団体です。被災者の方がうつ、自死、アルコール依存、PTSD、孤立などの心理的危機状態に陥ることを防ぐことを目的として熊本地震後に設立されました。しかし、発災直後の混沌とした状況では、「お悩みはありませんか」と話しかけたところで抵抗感を持たれる方が大半です。そのため、通常時に私たちが一対一で行うような介入を直接行うことは困難でした。そこで、カフェ活動と並行して、参加しやすく生活への意欲を引き出すようなイベントとしてももの作り（作っても作らなくても良い）の活動も行いました。これによって、単なるカフェ活動では「話すことがないから」と言って参加しなかった方も、“もの作りを通して一緒に過ごす”ことができるようになりました。そのような関わりの中で、心理士としての視点を持ちながらお話を伺ったり、時には専門職として行政や施設関係者と連携をしてきました。現在も日々変遷する被災者の方々の生活全般に係るニーズに耳を傾けたり、ともに思案したりしています。</p>                         |
| 寄付者へのメッセージ | <p>この度は、赤い羽根災害ボランティア・NPO 活動サポート募金へのご寄付をありがとうございました。</p> <p>被災地支援において、まず必要となるのは突発的支援、短期集中的な支援であるのは周知の事実であると思います。しかし真に重要となるのは長期・継続的な支援と考えます。震災の爪痕は日々の生活という現実的側面にも、居住者の精神的側面にも多くのものを残し、またそれらは一朝一夕で癒されるものではありません。私たちはこれまで、心理士として何かできることはないだろうかと手探りの中で活動を続けてきました。発災直後のころは炊き出しや掃除、物資の整理、がれきの撤去など、“一見すると”心のケア”とは関係ないようなことも行いました。しかし、そのように生活の中に入って関わっていくことも心のケアにおいて実は非常に重要なことであると現在では感じています。このような支援をするに至れたのも、寄付をしてくださった皆様のおかげです。私たちは熊本支援における長期的な支援を今後とも精一杯させていただき所存です。今後とも何卒、支援を賜りますようお願い申し上げます。</p> |

(活動のようす)

